

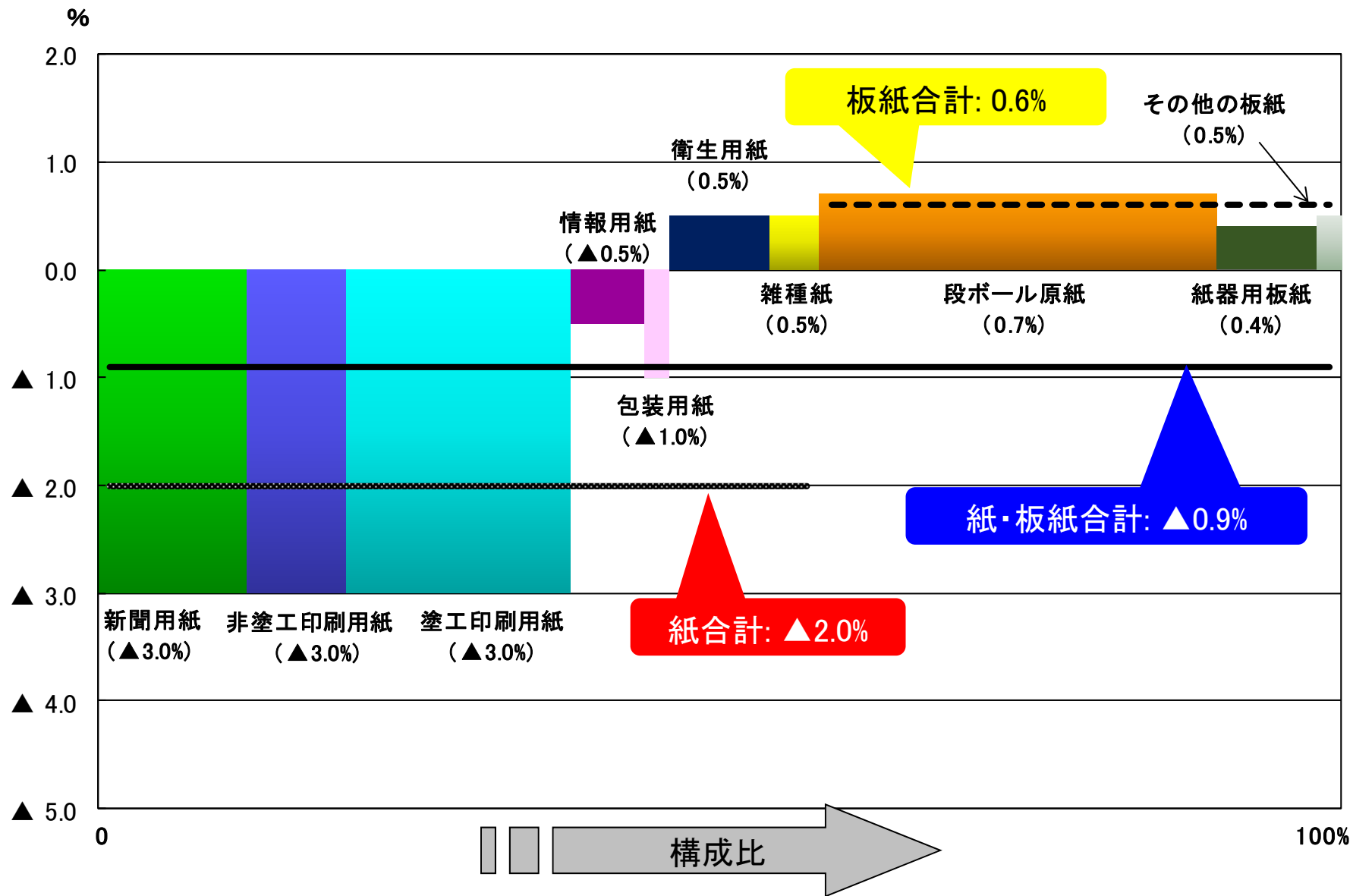
# 2015 (平成27)年紙・板紙内需試算報告

平成27年1月20日

日本製紙連合会

- I . 2015(平成27)年 紙・板紙内需試算(総括)…P3～5
- II . 2015(平成27)年 品種別内需試算…P6～23
- III . 2014年 紙・板紙内需実績見込み…P24
- IV . 参考…P25～26

# JPA I. 2015 (平成27)年紙・板紙内需試算 ①成長率と構成比



# JPA ②2015(平成27)年紙・板紙内需試算(実績推移及び見通し)

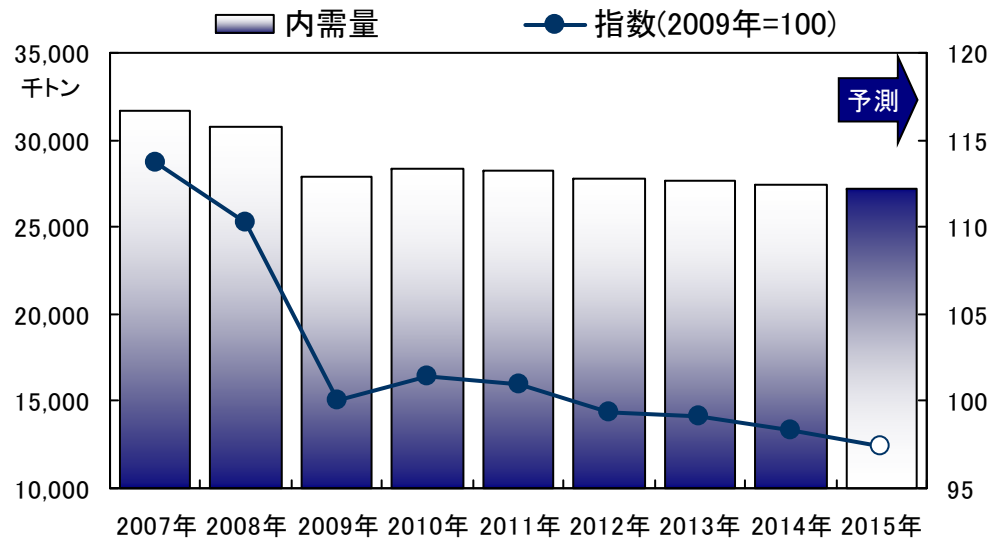
(単位:千トン、%:対前年増減率)

品 種		2007年		2008年		2009年		2010年		2011年		2012年		2013年		2014年見込み		2015年見通し	
紙	新聞用紙	3,716	▲ 1.3	3,632	▲ 2.3	3,414	▲ 6.0	3,349	▲ 1.9	3,245	▲ 3.1	3,305	1.8	3,247	▲ 1.7	3,175	▲ 2.2	3,081	▲ 3.0
	非塗工印刷用紙	3,053	▲ 1.4	2,830	▲ 7.3	2,583	▲ 8.7	2,493	▲ 3.5	2,428	▲ 2.6	2,350	▲ 3.2	2,301	▲ 2.1	2,221	▲ 3.5	2,154	▲ 3.0
	塗工印刷用紙	6,817	▲ 2.0	6,512	▲ 4.5	5,694	▲ 12.6	5,570	▲ 2.2	5,602	0.6	5,476	▲ 2.3	5,391	▲ 1.5	5,169	▲ 4.1	5,014	▲ 3.0
	情報用紙	2,005	0.7	2,010	0.2	1,847	▲ 8.1	1,886	2.1	1,853	▲ 1.8	1,849	▲ 0.2	1,839	▲ 0.6	1,832	▲ 0.4	1,823	▲ 0.5
	印刷・情報用紙計	11,876	▲ 1.4	11,352	▲ 4.4	10,123	▲ 10.8	9,949	▲ 1.7	9,883	▲ 0.7	9,676	▲ 2.1	9,531	▲ 1.5	9,222	▲ 3.2	8,990	▲ 2.5
	未ざらし包装紙	612	1.3	588	▲ 3.9	491	▲ 16.5	552	12.6	534	▲ 3.4	500	▲ 6.4	492	▲ 1.5	496	0.9	492	▲ 0.9
	ざらし包装紙	368	1.9	354	▲ 3.8	290	▲ 18.0	300	3.3	291	▲ 2.8	277	▲ 5.1	269	▲ 2.6	269	▲ 0.3	265	▲ 1.2
	包装用紙計	981	1.6	942	▲ 3.9	781	▲ 17.1	852	9.1	825	▲ 3.2	776	▲ 6.0	761	▲ 1.9	765	0.5	757	▲ 1.0
	衛生用紙	1,820	▲ 0.7	1,832	0.6	1,836	0.2	1,856	1.1	1,873	0.9	1,880	0.4	1,895	0.8	1,939	2.3	1,948	0.5
	雑種紙	872	2.4	822	▲ 5.8	713	▲ 13.2	797	11.8	768	▲ 3.7	744	▲ 3.2	728	▲ 2.1	757	4.1	761	0.5
	<b>紙 計</b>	<b>19,264</b>	<b>▲ 1.0</b>	<b>18,579</b>	<b>▲ 3.6</b>	<b>16,867</b>	<b>▲ 9.2</b>	<b>16,804</b>	<b>▲ 0.4</b>	<b>16,595</b>	<b>▲ 1.2</b>	<b>16,380</b>	<b>▲ 1.3</b>	<b>16,162</b>	<b>▲ 1.3</b>	<b>15,858</b>	<b>▲ 1.9</b>	<b>15,537</b>	<b>▲ 2.0</b>
板	ライナー	5,621	0.0	5,485	▲ 2.4	5,024	▲ 8.4	5,232	4.1	5,285	1.1	5,207	▲ 1.5	5,276	1.3	5,329	1.0	5,366	0.7
	中芯原紙	3,776	0.4	3,697	▲ 2.1	3,372	▲ 8.8	3,496	3.7	3,515	0.6	3,477	▲ 1.1	3,511	1.0	3,551	1.1	3,576	0.7
	段ボール原紙計	9,397	0.2	9,182	▲ 2.3	8,397	▲ 8.6	8,728	3.9	8,800	0.9	8,684	▲ 1.3	8,788	1.2	8,880	1.1	8,942	0.7
	白板紙	2,006	▲ 1.3	2,038	1.6	1,886	▲ 7.4	1,939	2.8	1,975	1.9	1,888	▲ 4.4	1,901	0.7	1,870	▲ 1.6	1,878	0.4
	黄子トップ・色板	192	▲ 6.4	182	▲ 5.0	151	▲ 17.1	155	2.8	155	▲ 0.0	143	▲ 7.7	144	0.8	146	1.3	145	▲ 0.7
	紙器用板紙計	2,198	▲ 1.7	2,220	1.0	2,037	▲ 8.2	2,094	2.8	2,130	1.7	2,031	▲ 4.7	2,046	0.7	2,016	▲ 1.4	2,023	0.4
	その他の板紙	867	▲ 0.0	776	▲ 10.5	612	▲ 21.1	667	9.0	672	0.6	651	▲ 3.1	669	2.8	677	1.2	681	0.5
<b>板 紙 計</b>	<b>12,461</b>	<b>▲ 0.2</b>	<b>12,177</b>	<b>▲ 2.3</b>	<b>11,046</b>	<b>▲ 9.3</b>	<b>11,489</b>	<b>4.0</b>	<b>11,602</b>	<b>1.1</b>	<b>11,366</b>	<b>▲ 2.0</b>	<b>11,503</b>	<b>1.2</b>	<b>11,573</b>	<b>0.6</b>	<b>11,646</b>	<b>0.6</b>	
<b>紙・板紙計</b>	<b>31,725</b>	<b>▲ 0.7</b>	<b>30,756</b>	<b>▲ 3.1</b>	<b>27,913</b>	<b>▲ 9.2</b>	<b>28,293</b>	<b>1.4</b>	<b>28,197</b>	<b>▲ 0.3</b>	<b>27,746</b>	<b>▲ 1.6</b>	<b>27,665</b>	<b>▲ 0.3</b>	<b>27,431</b>	<b>▲ 0.8</b>	<b>27,183</b>	<b>▲ 0.9</b>	

注) 千トン未満を四捨五入しているため、合計と積み上げた数量の計とは合わない場合がある。なお、対前年増減率はトンベースによる。

プラス要因	マイナス要因
<p>①景気回復の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実質GDPのプラス予想</li> <li>・企業業績の改善</li> </ul> <p>☆3.5兆円規模の緊急経済対策、消費増税(8→10%)の先送り</p> <p>②インバウンド強化への動き</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・訪日外国人の増加</li> <li>・海外進出した製造業の国内回帰への動き</li> </ul> <p>③レジャー・旅行需要は堅調</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・旅行者数(国内、海外)の増加</li> </ul> <p>☆北陸新幹線開業(3月)、シルバーウィーク(9月19～23日の5連休)</p> <p>④内食化の継続</p> <p>⑤医薬・健康関連市場の拡大</p> <p>⑥コンビニやドラッグストアの店舗数は増加</p> <p>⑦ネット通販等の拡大</p>	<p>①構造的要因の定着</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■人口減／少子高齢化</li> <li>■電子媒体へのシフト <ul style="list-style-type: none"> <li>・紙の出版物減少や広告の紙離れ</li> <li>・オフィスのペーパーレス化</li> </ul> </li> <li>■包装合理化の動き <ul style="list-style-type: none"> <li>・省包装/簡素化の動き</li> <li>・包装資材の他素材へのシフト</li> </ul> </li> </ul> <p>②消費マインドの停滞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活用品や電気料金の値上げによる家計への負担増</li> <li>・前年の消費増税仮需による耐久消費財の買い控え</li> </ul> <p>③大きなイベント開催の減少</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前年はソチ五輪、ブラジルW杯が開催</li> </ul>

# JPA II. 2015(平成27)年品種別内需試算：(1) 紙・板紙合計

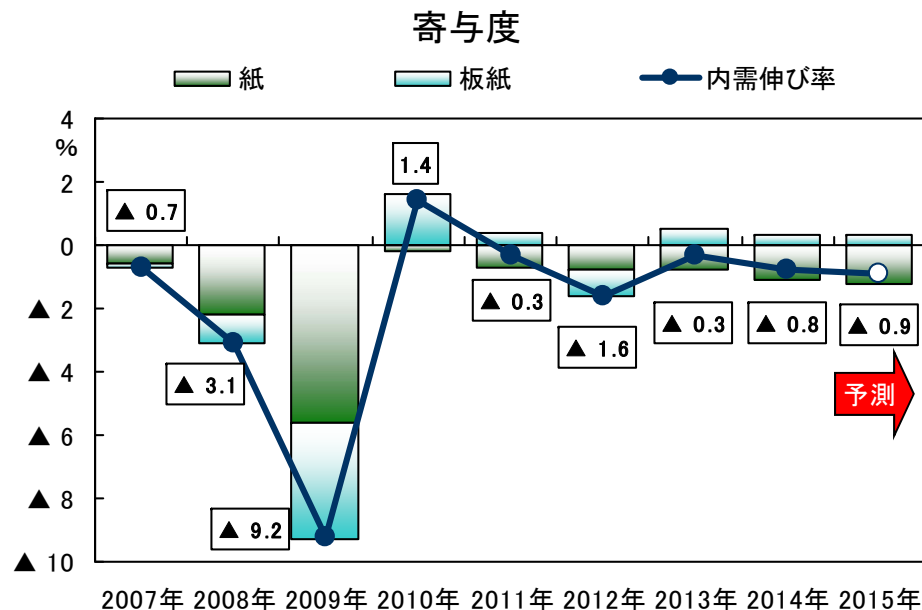


## 「近年の動向」

★紙・板紙の内需は、リーマン・ショック後の2009年に大きく数量を落とし、2010年は大きな反動もなく微増に止まった。2011年以降はマイナス成長が続いている。2014年も1-3月は消費増税前の仮需により紙、板紙とも高い伸び（紙：5.2%増、板紙：7.0%増）を示したものの、通年では、紙は増税後の落ち込みが大きく、減少した。板紙は反動が軽微だったことから増加した。全体では微減と4年連続のマイナスとなった。サプライ別には、国内出荷、輸入ともに減少した。

## 「2015年予測」

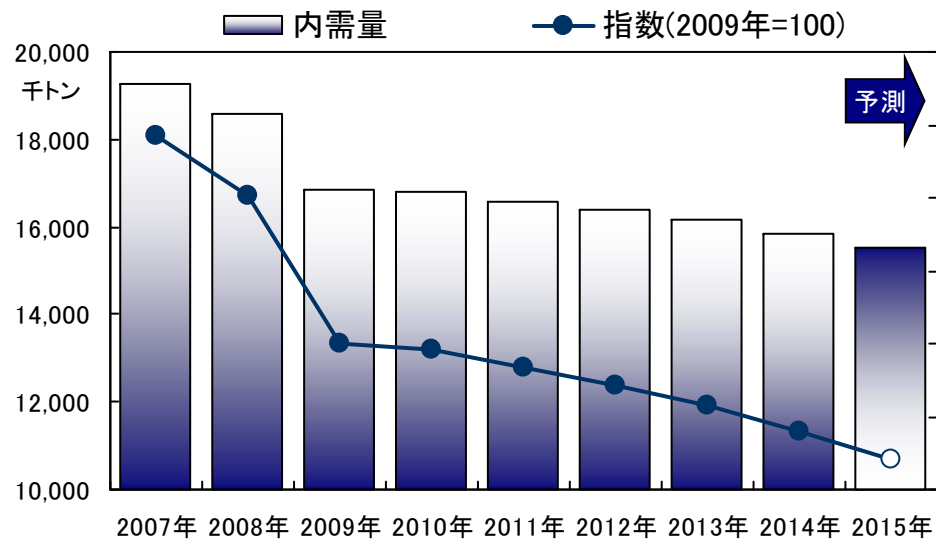
☆2015年の景気は、3.5兆円規模の経済対策や消費増税の先送りが景気の下支えとなり、また好調な米国経済や円安による輸出環境の改善などから、実質GDPは4年連続のプラス成長が見込まれる。こうした経済環境の下、紙・板紙の内需は、紙は電子媒体へのシフト等により引き続きマイナス、他方、板紙は堅調な食品分野を中心に3年連続のプラスを見込む。紙・板紙全体では前年を僅かに下回ると見込んだ。



☆紙・板紙合計について、品種別試算結果を積み上げると、内需量は2,718万トン、前年に対して0.9%減、約25万トンの減少となる。マイナス成長は5年連続。リーマン・ショック後では、2009年(2,791万トン)に対し97.4%、約73万トンの減少となる。

☆紙・板紙別寄与度について、紙は1.2pt減、板紙は0.3pt増と、紙のマイナスが全体を押し下げると見込んだ。

# JPA (2) 紙合計



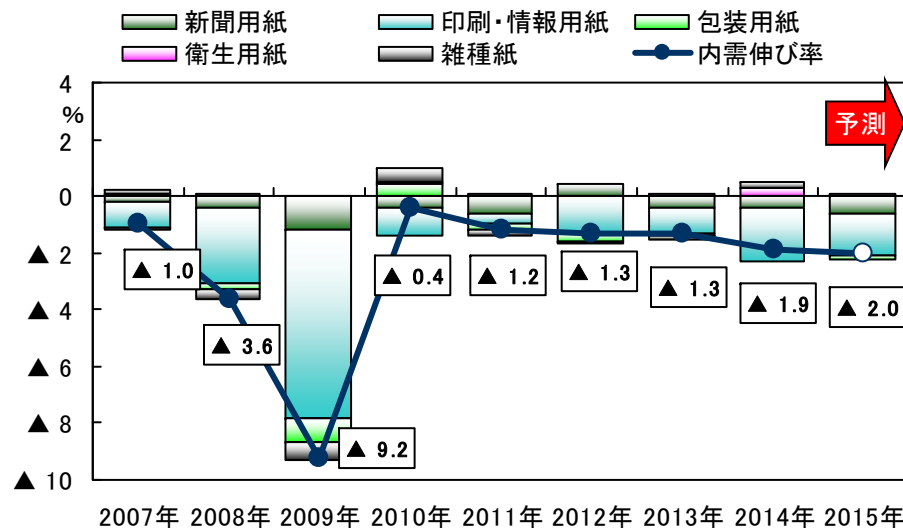
## 「近年の動向」

★紙の内需は、リーマン・ショック後の2009年に数量を落とし、2010年以降も微減で推移している。2014年は1-3月に消費増税前の仮需が見られたが、それ以降はその反動から減少が続き、通年では1.9%減と8年連続のマイナスとなった。サプライ別には、国内出荷は新聞用紙、印刷・情報用紙の減少により2年ぶりにマイナス、輸入は円安進行に伴い2年連続のマイナスとなった。流通在庫は減少した。

## 「2015年予測」

☆衛生用紙は底堅い需要により微増を予測したが、グラフィック及び包装分野は紙の出版物の減少や広告の紙離れ、オフィス等でのペーパーレス化、省包装化等から減少し、全体ではマイナスを見込んだ。

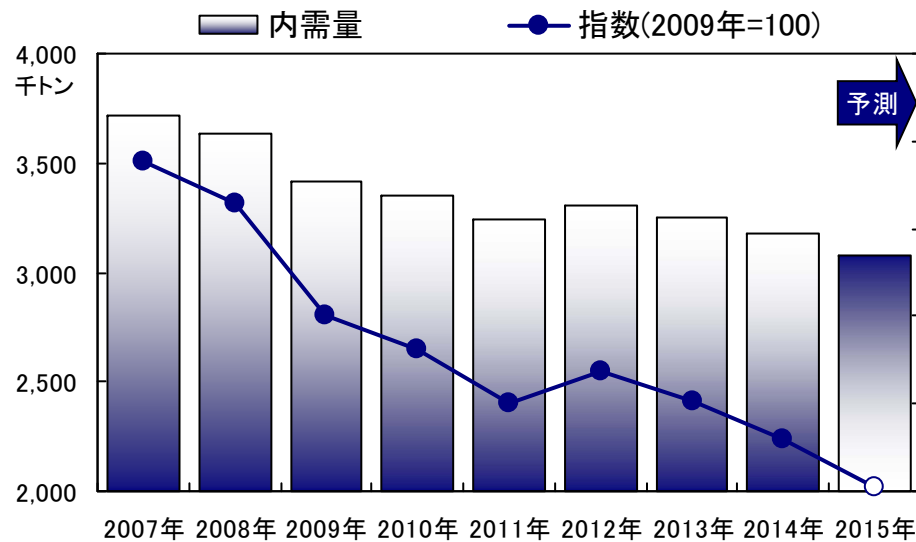
## 寄与度



☆紙合計について、品種別試算結果を積み上げると、内需量は1,554万トン、前年に対して2.0%減、約32万トンの減少となる。マイナス成長は9年連続。リーマン・ショック後の2009年(1,687万トン)に対し92.1%、約133万トンの減少となる。

☆品種別寄与度について、新聞用紙は0.6pt減、印刷・情報用紙は1.5pt減、包装用紙は0.0pt減、衛生用紙は0.1pt増を見込んだ。

# JPA (3) 新聞用紙



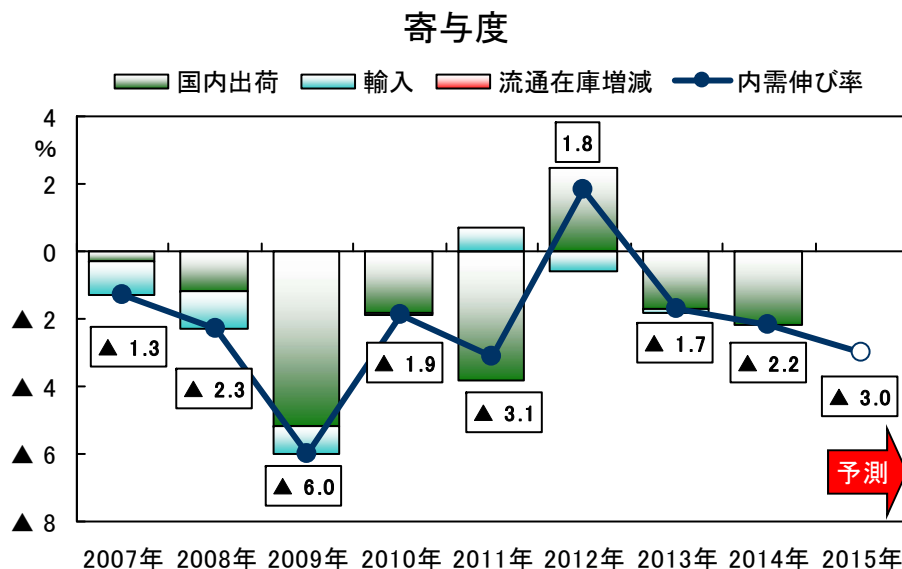
## 「近年の動向」

★新聞用紙の内需は、情報収集手段の多様化に伴い若年層を中心に新聞離れが進んでいることや、広告主のマス媒体からネット等へのシフトといった構造要因により、減少傾向が続いている。2012年は、うるう年のため発行日数が1日多かったことなどにより、6年ぶりにプラスとなったが、2013年は再びマイナスに転じた。2014年は、1-3月は消費増税を前に広告出稿が増加したことから前年水準を上回ったが、4月以降は発行部数減の影響が大きく、通年では2年連続の前年割れとなった。

## 「2015年予測」

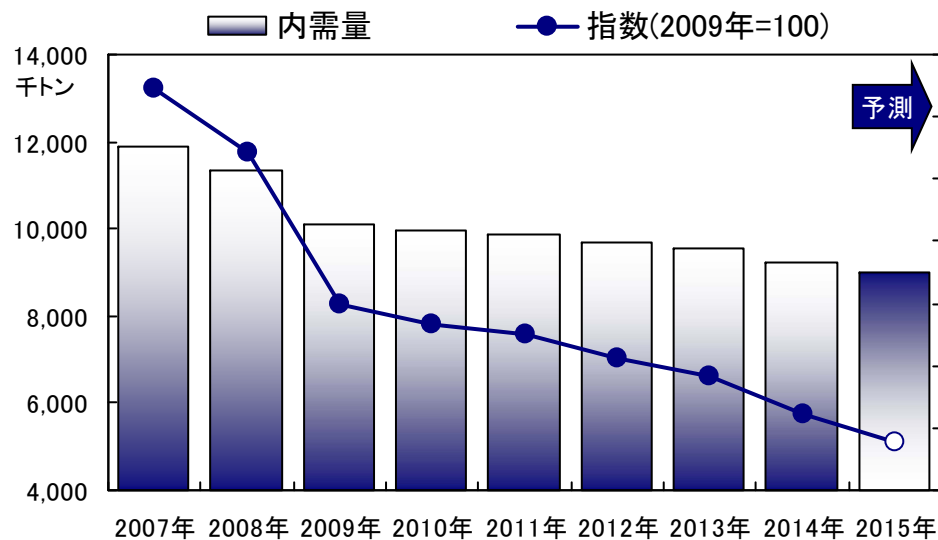
☆新聞用紙の内需は、基本的に発行部数と頁数の増減によって決まる。頁数は、広告出稿の動きに影響を受けるが、広告の他媒体へのシフトは基調として続くものの、企業業績改善を背景に広告市場拡大が予想されることから、新聞広告も底堅い推移が見込まれる。このため、頁数についても大きな変動はないと考えられる。発行部数は、消費増税後に減少ペースが加速したが、その影響が一巡する本年4月以降は、減少幅が縮小すると予想される。スポット要因としては、2014年は2月のソチ五輪や6月から7月にかけてのFIFAワールドカップがあったが、2015年については明確な需要押し上げ要因となるようなイベント等は予定されていない。

☆以上を勘案し、新聞用紙の内需は前年に対し3.0%の減少を見込んだ。





# JPA (4) 印刷・情報用紙



## 「近年の動向」

★印刷・情報用紙の内需は、2006年をピークに縮小を続けている。特にリーマン・ショック後の2009年には大きく数量を落とした。2014年は消費増税後の反動減が長引いたこともあり、3%を超える減少。主要品種は、情報用紙はほぼ横ばいも、印刷用紙(非塗工、塗工)が減少し、全体では8年連続の減少となった。サプライ別には国内出荷(2年ぶり)、輸入(2年連続)ともに前年を下回った。

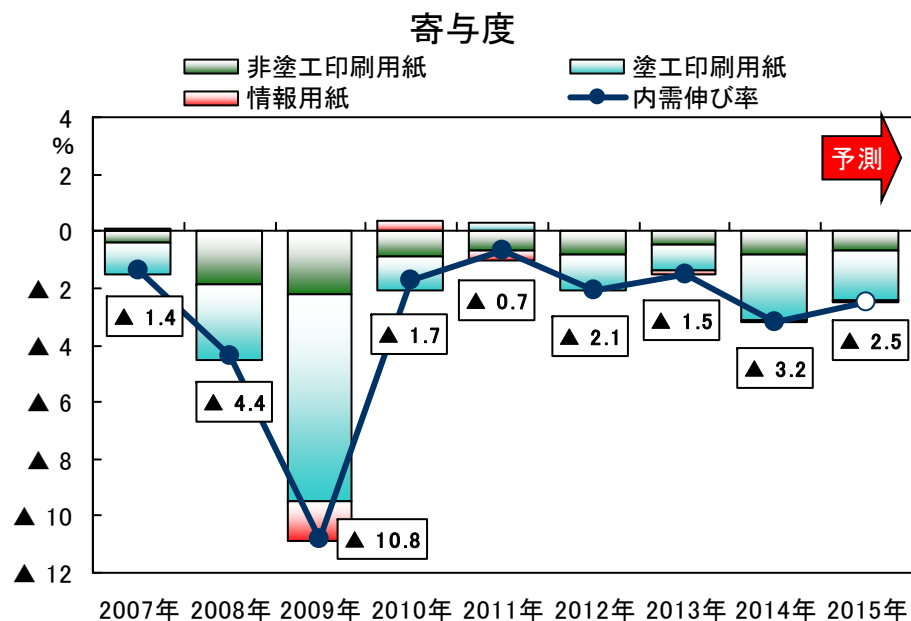
## 「2015年予測」

☆非塗工、塗工、情報ともに電子媒体へのシフトやユーザーの節約志向(ペーパーレス化)等により減少継続を見込む。

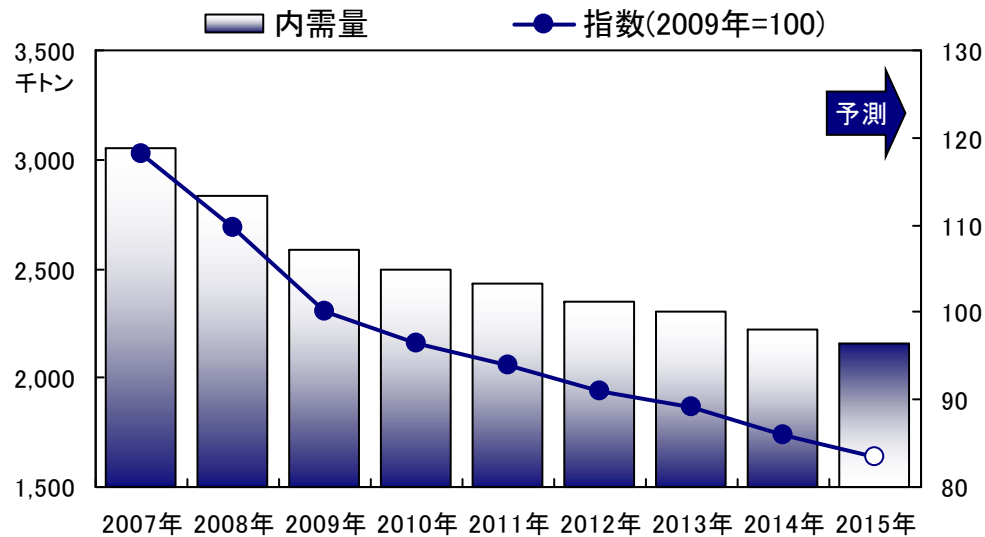
☆印刷・情報用紙の合計について、品種別試算結果を積み上げると、内需量は899万トン、前年に対し2.5%減、約23万トンの減少となる。マイナス成長は9年連続。

☆品種別寄与度について、非塗工印刷用紙は0.7pt減、塗工印刷用紙は1.7pt減、情報用紙は0.1pt減と、印刷用紙を中心にいずれもマイナスを見込んだ。

☆詳細については当該品種頁参照。



# JPA (4)-① 非塗工印刷用紙



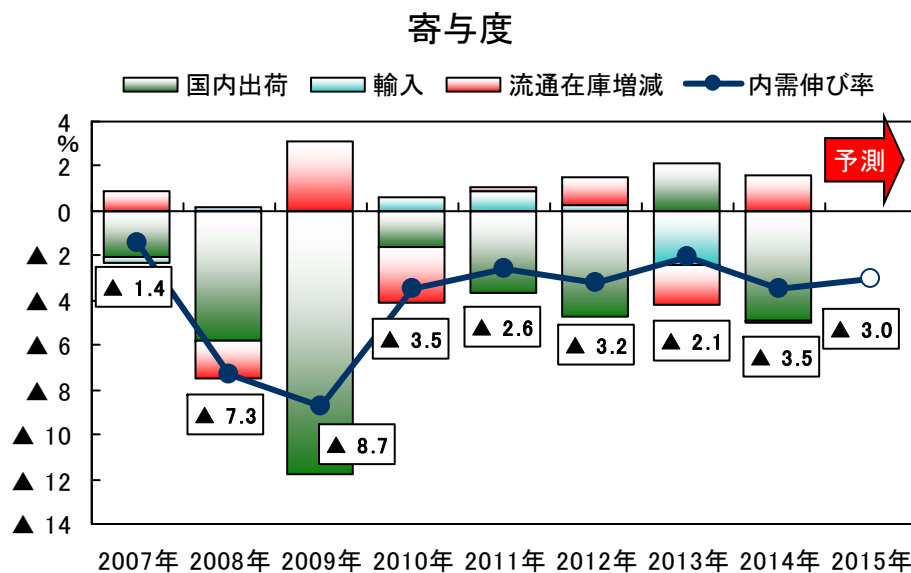
## 「近年の動向」

★印刷・情報用紙のうち、非塗工印刷用紙の内需は、長引く出版不況の影響等により中・下級印刷紙を中心に減少を続けている。2014年は、1-3月に消費増税前の仮需も見られたが、4月以降の反動減が長引いたことから、通年では上級印刷紙、中・下級印刷紙、薄葉・特殊印刷紙とも減少し、全体では2005年以降、10年連続で前年を下回った。サプライ別にみると、国内出荷(2年ぶり)、輸入(2年連続)ともに前年を下回った。

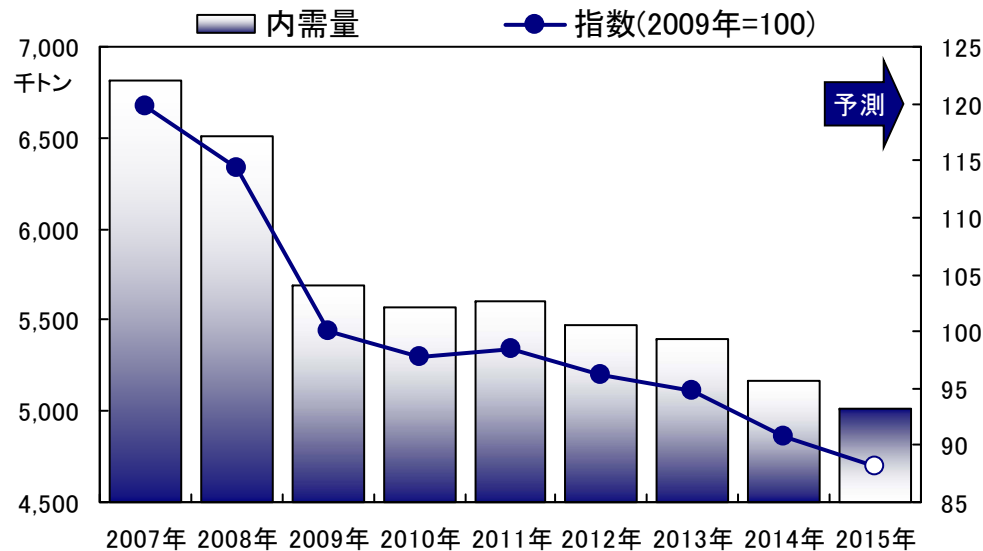
## 「2015年予測」

☆上級印刷紙は、汎用性の高さからチラシや目論見書・取扱説明書など用途は広範囲に及ぶものの、ICT化に伴う帳票類等の減少や小口印刷物の内製化といった動きにより、前年を下回ると予想する。中・下級印刷紙は、既存の出版市場の縮小に加えて、スマートフォンやタブレット端末など電子媒体の普及による情報源や娯楽の多様化により、減少継続が見込まれる。

☆以上を勘案し、非塗工印刷用紙の内需は前年に対し3.0%の減少を見込んだ。



# JPA (4)-② 塗工印刷用紙



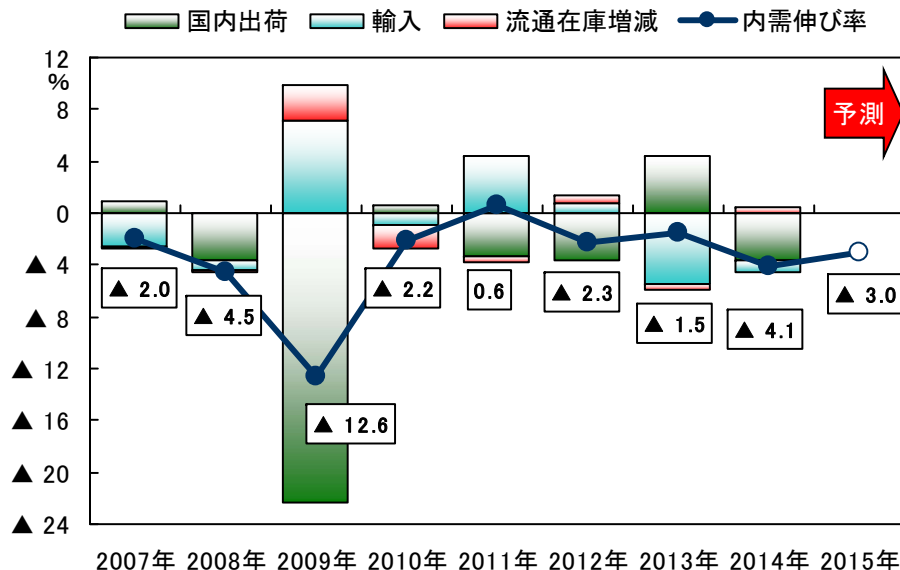
## 「近年の動向」

★印刷・情報用紙のうち、塗工印刷用紙の内需は、2007年より縮小、特にリーマン・ショック後の2009年に大きく減少し、その後も縮小傾向にある。2014年は、1-3月に消費増税前の仮需も見られたが、4月以降は反動減に加えてICT化等の影響もあり、商業印刷向けを中心に主要品種は前年割れとなった。サプライ 別には、国内出荷(2年ぶり)、輸入(2年連続)ともに前年を下回った。輸入比率は前年とほぼ横ばいの12.4%だった。

## 「2015年予測」

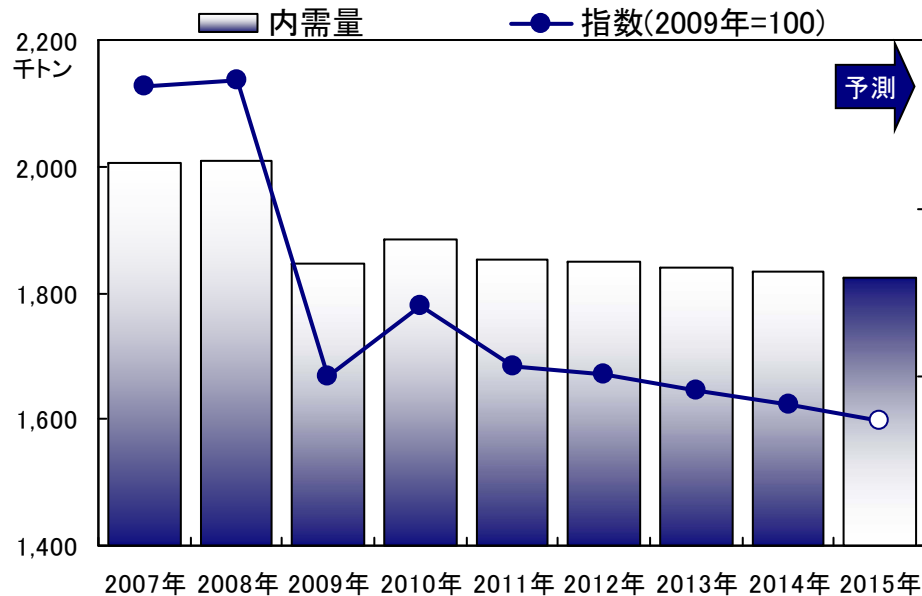
☆景気の緩やかな上昇が見込まれるなか、企業業績の改善を背景に広告市場の拡大が予想されるが、紙媒体の需要増は期待できない。カタログ、チラシ等、販促用商業印刷については部数減やサイズダウン等により全般的には低調に推移するものと見られる。需要各社の継続的なコストダウンに加えて、ICT化に伴う電子チラシ、ネット広告等、他の広告媒体へのシフトやグレードダウン、低米坪化も引き続き予想される。

## 寄与度



☆以上を勘案し、塗工印刷用紙の内需は前年に対し3.0%の減少と予測した。主力品種は上質コート、軽量コート、微塗工紙、いずれも前年を下回ると見込んだ。

# JPA (4) - ③ 情報用紙



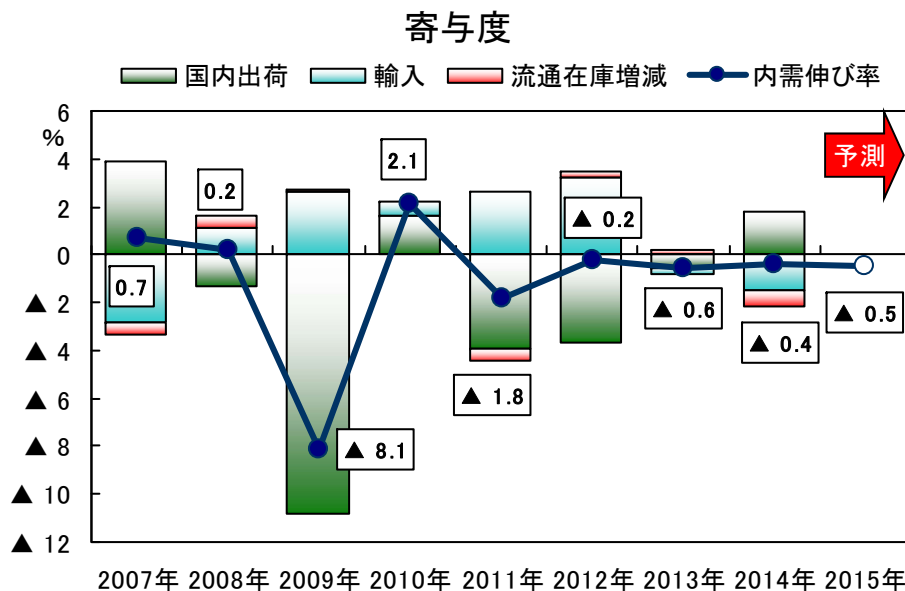
## 「近年の動向」

★情報用紙の内需は、2009年に大幅に減少した後、2010年は反動増や国勢調査に伴うスポット需要等から増加に転じたが、2011年以降は減少を続けている。2014年については、1-3月は消費増税前の仮需により前年水準を上回ったが、4月以降はマイナス基調に転じ、通年でも前年割れとなった。品種別では、PPC用紙や情報記録紙が底堅い推移を示しているのに対し、フォーム用紙や複写原紙は電子化や普通紙化の影響が大きいことから減少している。

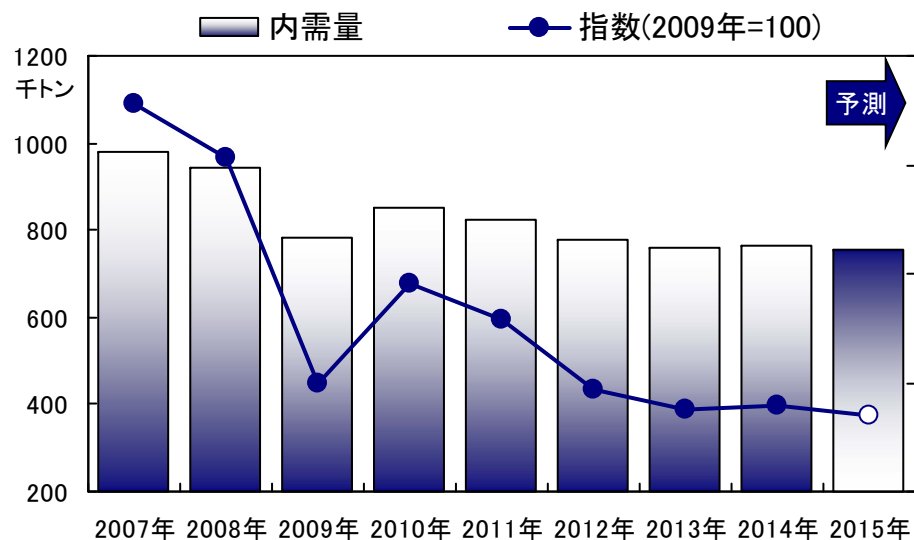
## 「2015年予測」

☆PPC用紙は汎用性・利便性の高さから、底堅い需要が見込まれる。ユーザーの節約志向は根強いものがあるが、他品種(フォーム用紙等)からのシフトもあって、前年と同水準程度は期待できる。フォーム用紙は、デザインフォームのDM向け等は底堅い需要が期待できるものの、電子化、カット紙化の進展により、全体として減少継続が予想される。複写原紙についても、単票化やペーパーレス化等により、前年を下回る見通し。情報記録紙については、物流分野での感熱紙ラベル等、堅調な分野もあるが、電子化の影響等もあり、全体としては前年と大差ない水準となる見通し。

☆以上を勘案し、情報用紙の内需は前年に対し0.5%の減少を見込んだ。



# JPA (5) 包装用紙



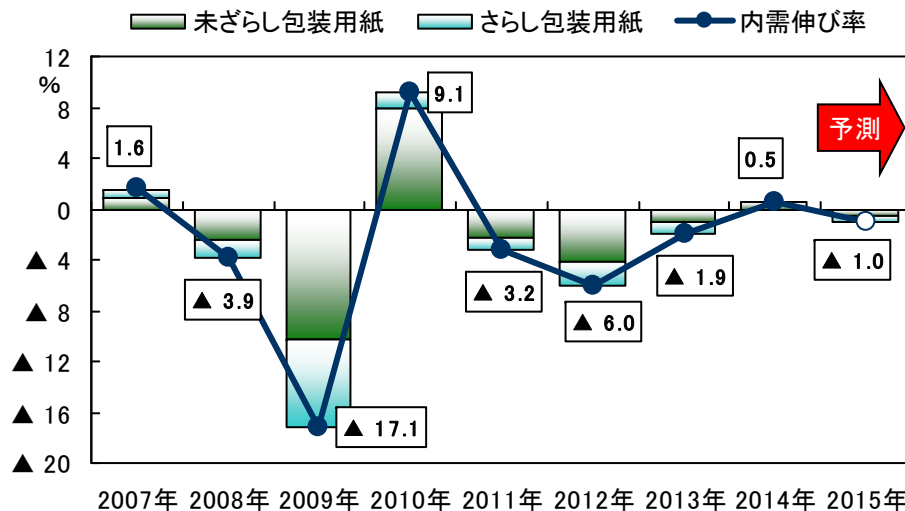
## 「近年の動向」

★内需はリーマン・ショック後の2009年に大きく落ち込んだ。翌年には反動増はあったものの、その後は減少が続いた。2014年は消費増税の影響を受け、1-3月に需要は比較的大きな伸びを示した。下半期は前年を下回る水準で推移したが、通年では4年ぶりに前年を上回る結果となった。包装用紙内でのさらしから未ざらしへの動きは続いている。

## 「2015年予測」

☆上半期の需要は、前年の反動から下落が予想される。一方、年の後半は景気が緩やかながらも持ち直し、需要を下支えすることが期待され、前年比増加も期待される。  
☆原油価格下落により、再びポリ等中心に他部材へのシフトが加速する懸念がある。

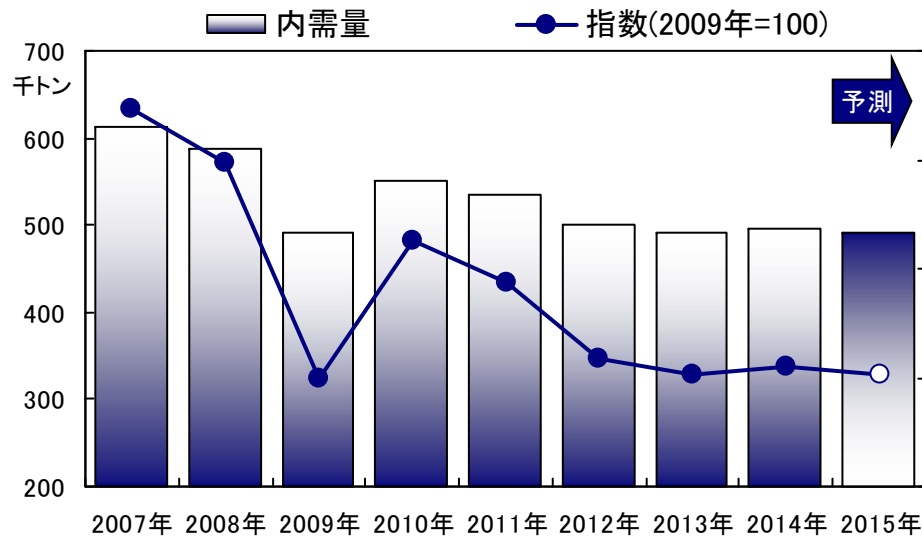
## 寄与度



☆包装用紙について、品種別試算結果を積み上げると、内需量は757千トン、前年に対し1.0%の減少となり、2年振りのマイナスを見込んだ。

☆詳細については当該品種頁参照。

# JPA (5) - ① 未ざらし包装用紙



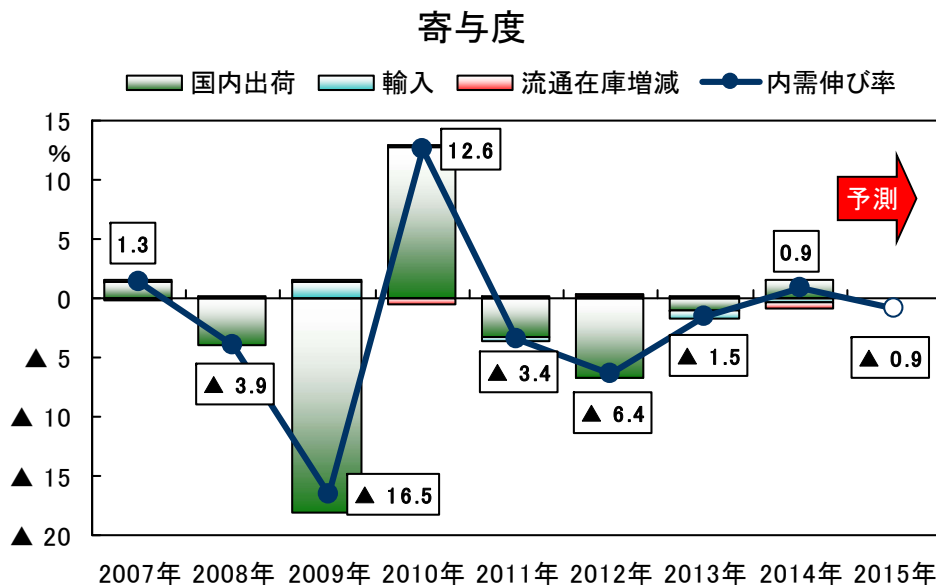
## 「近年の動向」

★2011年以降も、省包装、軟包装化の動きが続き、内需の減少が続いた。2014年は4年ぶりに前年を上回った(0.9%増)。消費増税前の仮需により1-3月を中心に比較的堅調な動きが見られた。

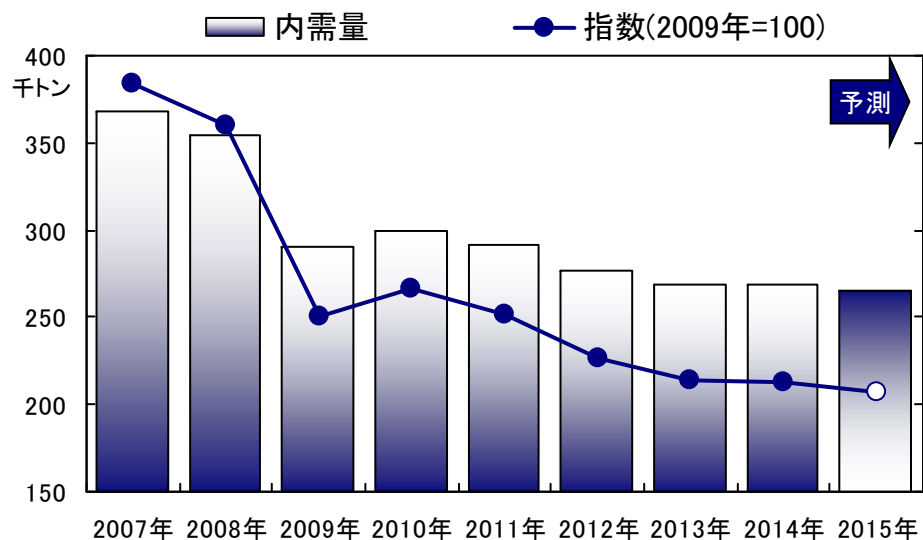
## 「2015年予測」

☆重袋用両更クラフト紙の主要用途では①合成樹脂・化学薬品向けは生産能力削減の動きがあることからマイナス、②米麦向けはフレコン(軟包装)へのシフトの動き等からマイナス、③セメント向けは住宅着工が上向くものの、生コン化や他部材への動きが続き、ややマイナスを予想。以上より、需要はマイナスを予想した。その他両更クラフト紙に関しては、国勢調査用の封筒需要が特需として見込めるが、角底袋、手提袋需要は、大手ファーストフード向けの不振や消費マインドの停滞等が予想されることから、マイナスを予想した。

☆以上を勘案し、未ざらし包装用紙の内需は前年に対し0.9%減少すると見込んだ。



# JPA (5) – ② さらし包装用紙



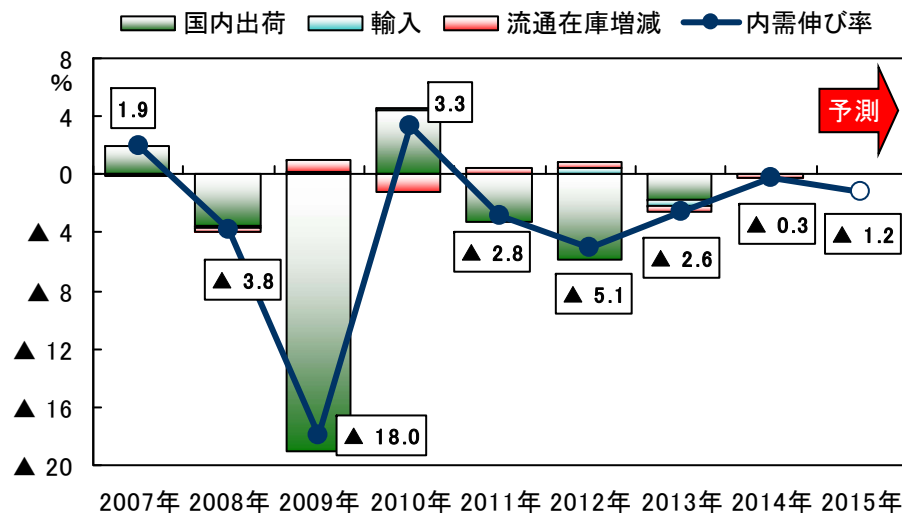
## 「近年の動向」

★2009年はリーマン・ショックの影響を受け、需要の落ち込みは16.5%減と大きく落ち込んだ。翌年の反動は3.3%増と小幅なものにとどまった。その後は2014年まで4年連続で前年を下回る状況が続いている。2014年は消費増税前の仮需により1-3月の伸びは比較的高かったが(6.1%増)、年後半の低水準から、通年では前年割れとなった。

## 「2015年予測」

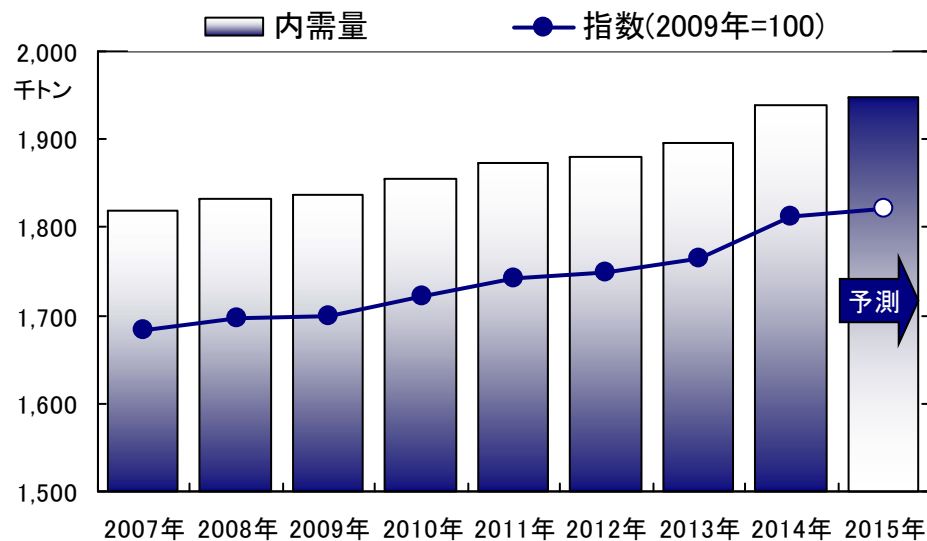
☆品種別にみると、さらしクラフト紙は角底袋、手提袋用途共に消費マインドの冷え込みから需要はマイナス。加えて未ざらしへのシフトもありマイナス幅は拡大すると予想される。加工向けは、食品用途向けは底堅いとし横ばいを予想。封筒需要は、国勢調査向需要はあるものの、WEB化、圧着ハガキ化の流れは続くと思われることからマイナスを予想する。純白ロール紙については、コンビニのレジ回り商品向け包装需要や加工向け需要(食品、薬品)は堅調も、一般包装や建材向け需要の減少は続く予想される。

## 寄与度



☆以上を勘案し、さらし包装用紙の内需は前年に対し1.2%減少すると見込んだ。

# JPA (6) 衛生用紙



## 「近年の動向」

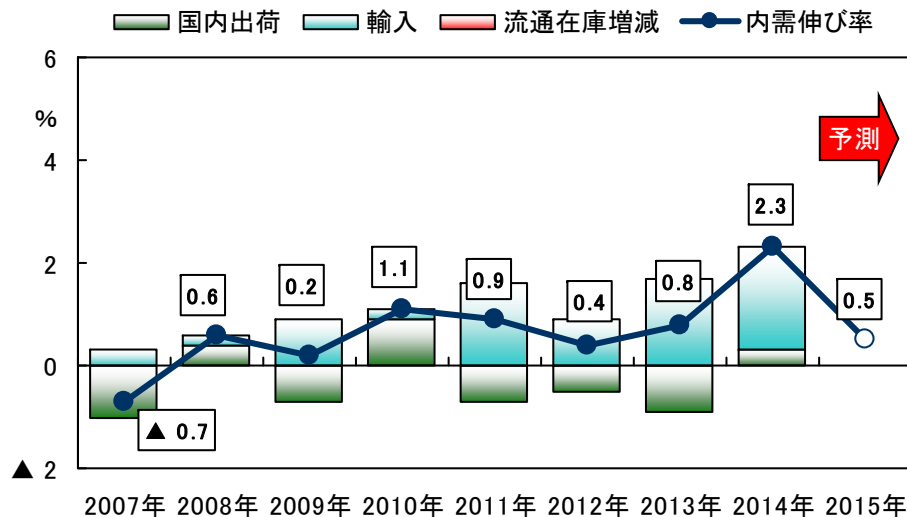
★衛生用紙の内需は、2008年以降プラス基調にある。リーマン・ショック後の2009年においても微増であり、人口減少や節約志向等のマイナス要因はあるものの、生活必需品として堅調に推移している。2014年は消費増税に伴う仮需から1-3月はプラスとなった。続く4-6月に反動減が見られたものの、通年ではプラスとなり7年連続の増加となった。サプライ別に見ると、国内出荷は4年ぶりに増加、輸入は製品輸入を中心に大幅に増加し、8年連続で前年を上回った。

## 「2015年予測」

☆衛生用紙は生活必需品としての底堅い需要や、世帯数の増加、販売チャネルの多様化等により、微増を予測する。ティッシュペーパーは花粉飛散量の増加予測や高付加価値商品の浸透から増加へ。トイレtpペーパーは、訪日外国人の増加による業務用需要や、備蓄需要等を見込みプラスに。タオル用紙については衛生意識の高まり等から増加を予測する。

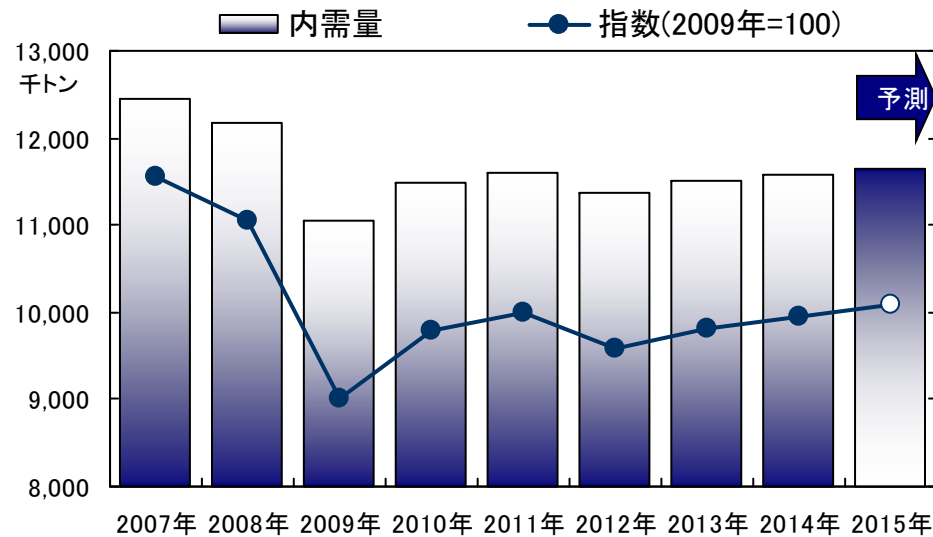
☆以上を勘案し、衛生用紙の内需は前年に対し0.5%の増加を見込んだ。

## 寄与度





# JPA (7) 板紙合計

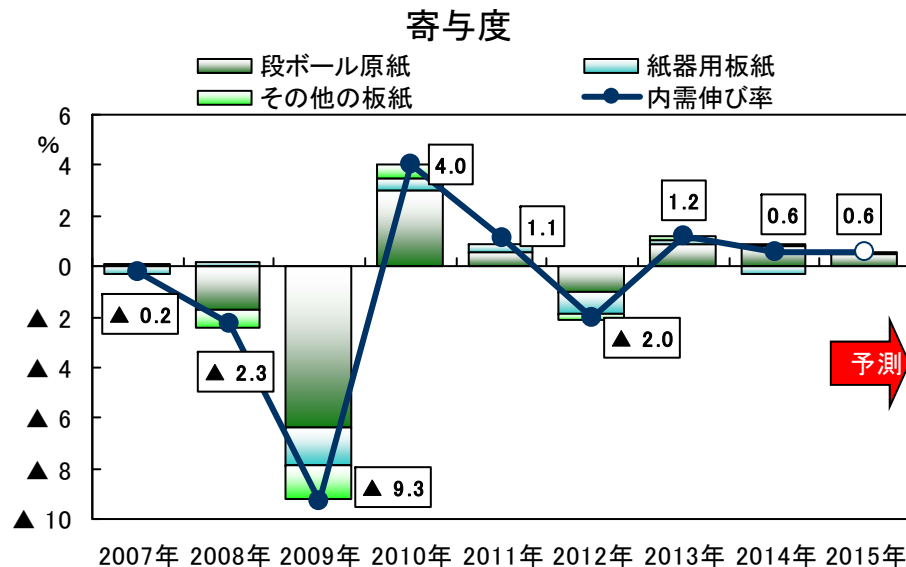


## 「近年の動向」

★板紙の内需は、リーマン・ショック後の2009年に大きく減少した。2010年は前年の大幅減の反動増もあり4年ぶりに増加、2011年は大震災後の被災地支援等がプラスに寄与し、2年連続で前年を上回った。2012年は輸出関連需要の減少等から前年を下回ったが、2013年は堅調な食品需要に支えられ、2014年は1-3月に消費増税前の仮需で大きく伸びたことから、2年連続の増加となった。

## 「2015年予測」

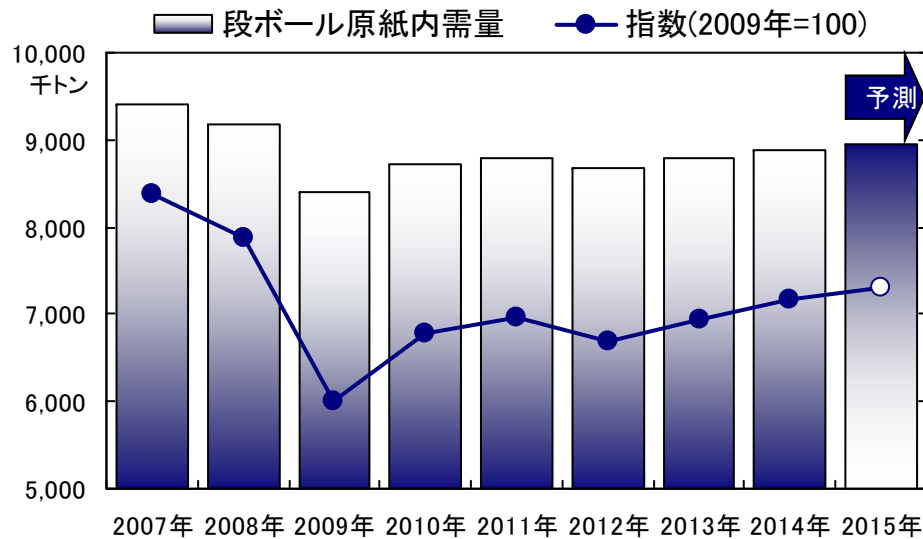
☆主要品種について、主力の段ボール原紙は0.7%増、紙器用板紙は0.4%増(うち白板紙は0.4%増)とともにプラスを見込んだ。



☆板紙合計について、品種別試算結果を積み上げると、内需量は1,165万トン、前年に対して0.6%増、約7万トンの増加となる。リーマン・ショック後では、2009年(1,105万トン)に対し105.4%、約60万トンの増加となる。

☆品種別寄与度について、段ボール原紙は0.5pt増、紙器用板紙は0.1pt増、その他の板紙が0.0pt増と主力の段ボール原紙が牽引する。

# JPA (8) 段ボール原紙①



## 「近年の動向」

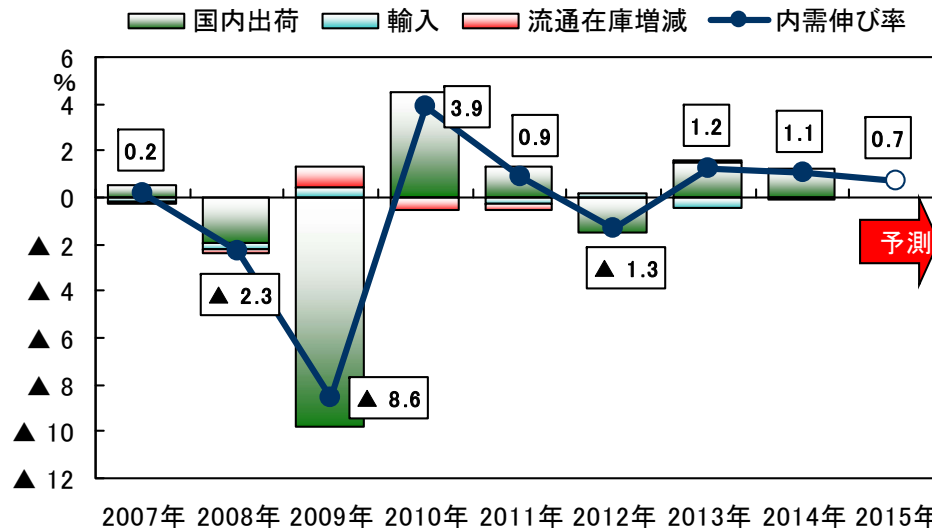
★段ボール原紙の内需は2009年に経済状況の悪化から大幅なマイナスとなった。2010年は前年の落ち込みの反動等から3年ぶりのプラスに転じたが、前々年(2008年)をかなり下回る水準に止まった。2012年は電気・機械器具向けの不振等から前年を下回ったが、2013年は猛暑を背景とした飲料向けの増加等からプラスに、2014年は消費増税前の仮需による高い伸びがプラスに寄与し、2年連続で前年を上回った。

## 「2015年予測」

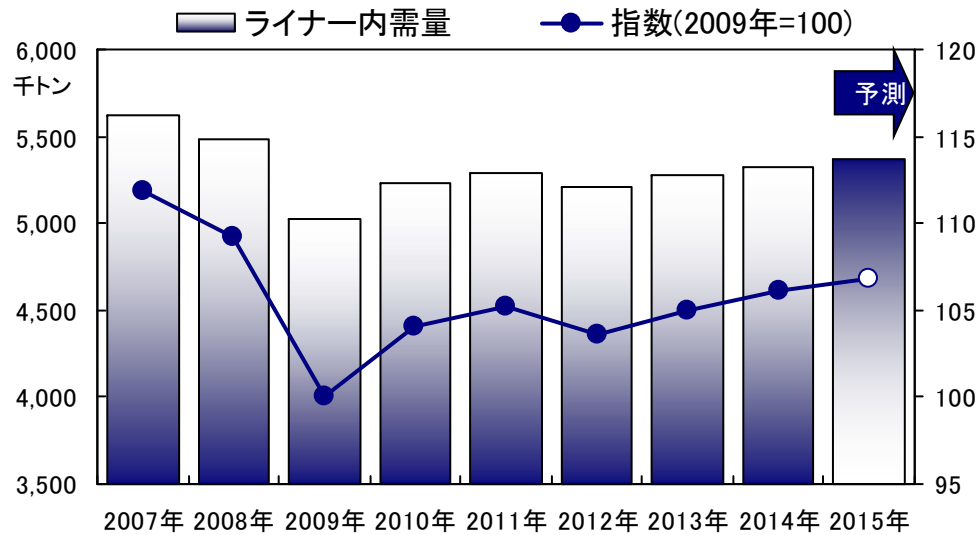
☆全国段ボール工業組合連合会(全段連)の需要予測によれば、段ボールシートの生産は1.0%増とプラスを見通している。主要分野では、電気・機械器具向けは前年並みを予想しているが、過半を占める加工食品等の食品向けは清涼飲料の増加等からプラスと見ている。段ボール原紙については、これらの需要動向を参考に、近年の原紙の軽量化を加味し、微増ではあるがプラスを見込んだ。

☆以上を勘案し、段ボール原紙の内需は前年に対し0.7%の増加(ライナー0.7%増、中芯原紙0.7%増)を見込んだ。

## 寄与度



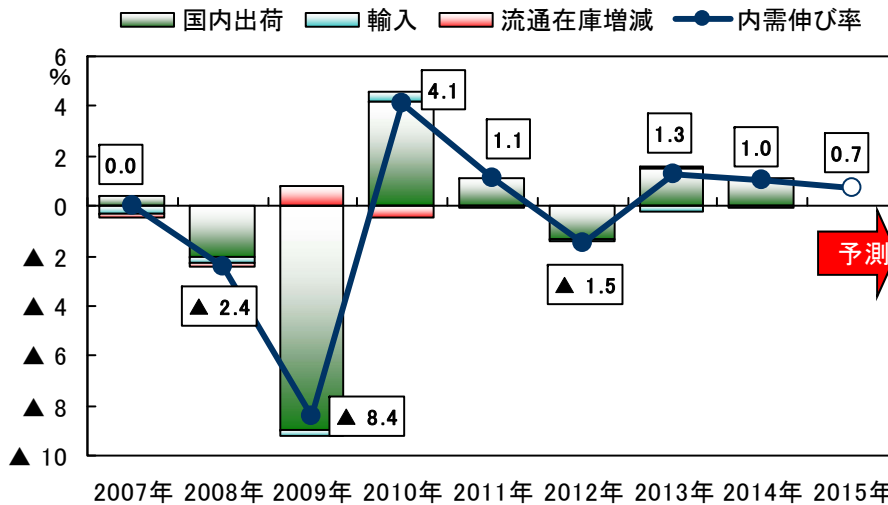
# JPA (8) 段ボール原紙一②



## 「2015年予測:分野別の需要動向」

☆加工食品向け(2014年1-10月需要部門別構成比:42.9%、以下同じ)は、冷凍食品は内食化の定着や中食市場の拡大等を背景に増加が見込まれ、菓子分野はビスケットやスナック菓子を中心に堅調と予想される。飲料関係では、ビール類は、「発泡酒」が糖質ゼロといった機能性商品で増加が見込まれるが、「ビール」及び「新ジャンル」は減少すると見られ、ビール類全体では前年を下回ることが予想される。清涼飲料は、ミネラルウォーターや茶系飲料は増加が予想され、炭酸飲料も堅調と見られるため、増加が見込まれる。全体では前年を上回ることが予想される。

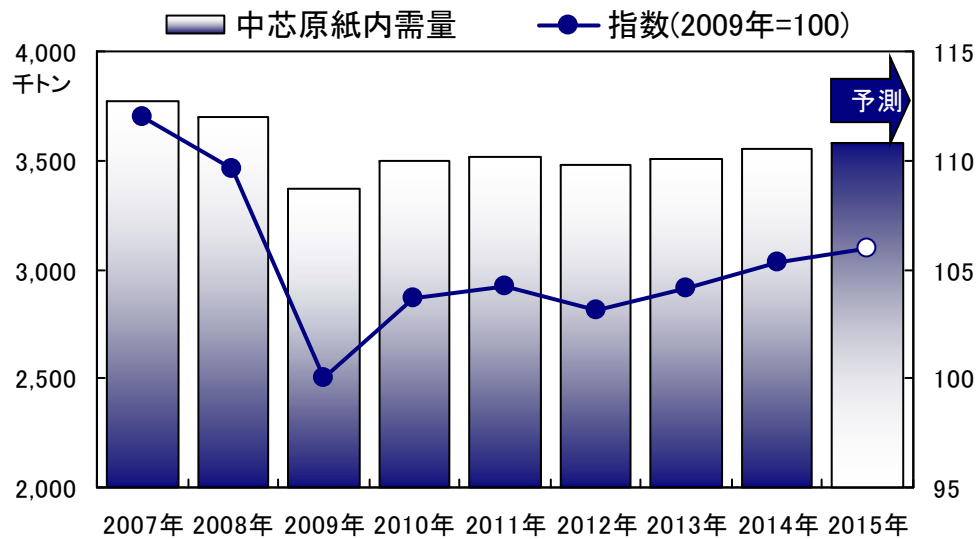
## 寄与度



☆青果物向け(構成比:11.2%)は、天候次第の面はあるが、農業人口の減少や少子化により伸びは見込めないものの、食品の安全問題による国産品へのシフトや内食化の定着もあり、前年並みが予想される。

☆電気器具・機械器具向け(構成比:7.5%)は、円安による輸出関連需要や国内生産の増加は見込まれるが、前年の消費増税前の仮需(自動車や電気製品等の耐久消費財の前倒し需要)の反動等もあり、前年並みが予想される。

# JPA (8) 段ボール原紙③



## 「2015年予測:分野別の需要動向」

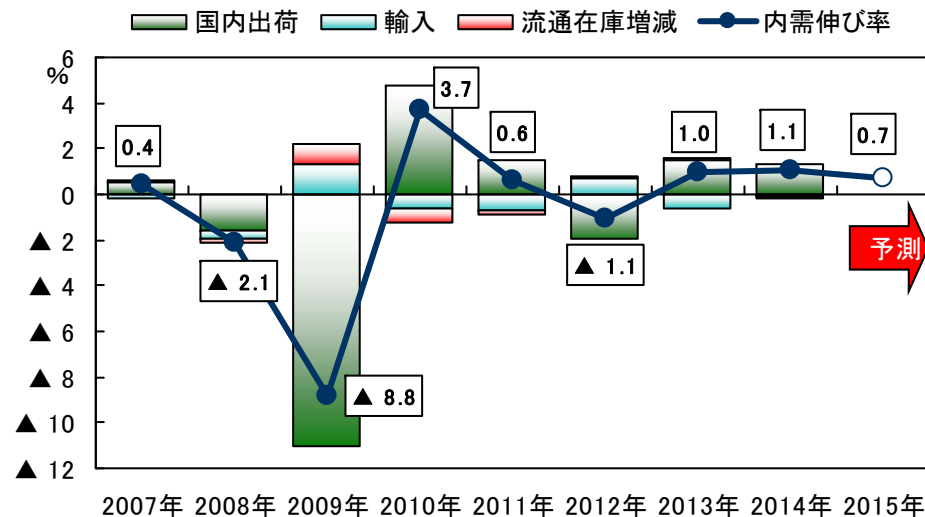
☆薬品・洗剤・化粧品向け(構成比:6.3%)は、高齢化社会による需要増や、ジェネリック医薬品の増加、大手ドラッグストアの店舗数の増加もあり、前年を上回ることが予想される。

☆陶磁器・ガラス製品・雑貨向け(構成比:5.2%)は、消費増税後の消費者の節約志向の強まりから、前年を下回ることが予想される。

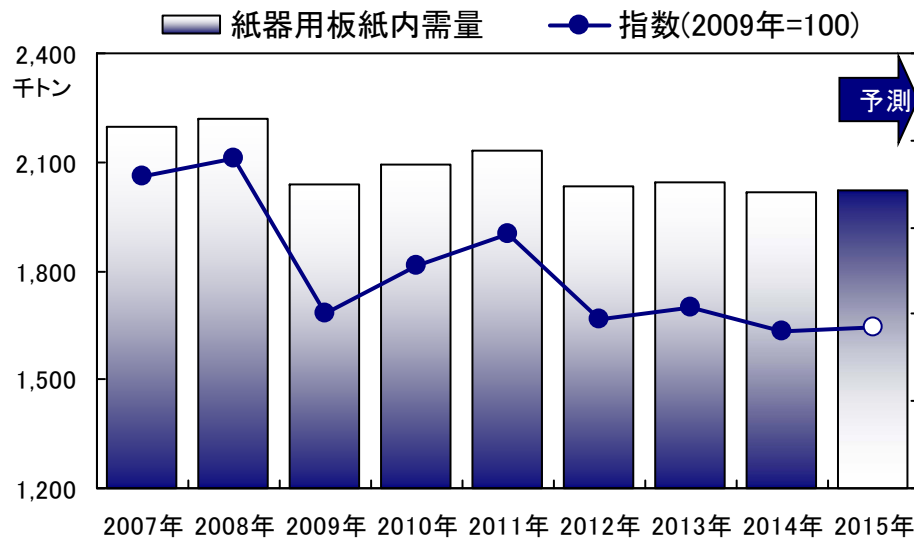
☆通販・宅配向け(構成比:4.3%)は、ネット通販を中心に需要は拡大している。スマートフォンの普及や高齢化社会は追い風になると見られ、増加が予想される。

☆繊維製品向け(構成比:1.9%)は、衣料品の低価格品市場は堅調。円安等を背景に国産回帰も見られるが、消費増税後の消費者の節約志向の高まりから、前年を下回ることが予想される。

## 寄与度



# JPA (9) 紙器用板紙—①



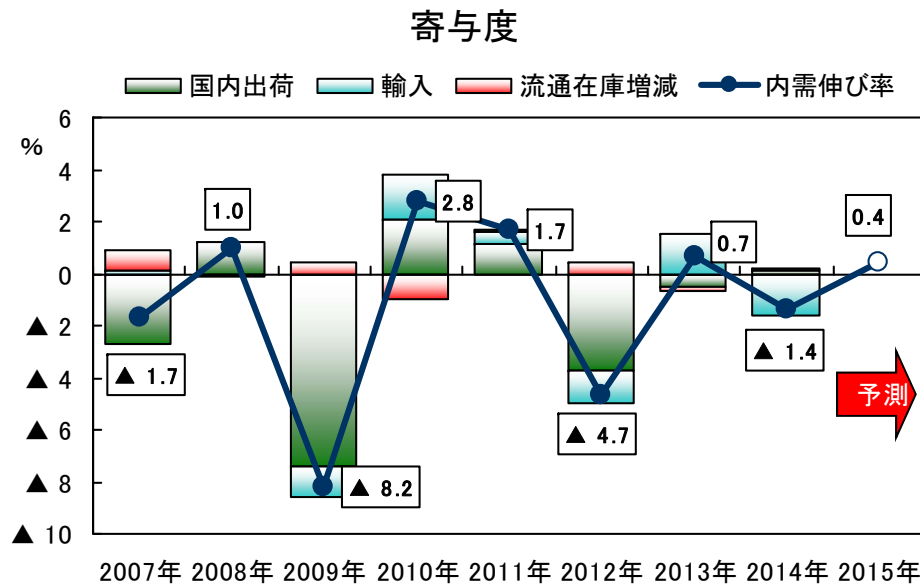
## 「近年の動向」

★紙器用板紙の内需は2009年に経済状況の悪化から大幅に下落した。2010年は弱いながらも前年の落ち込みの反動等からプラスに転じ、2011年は大震災後の支援物資需要もあり2年連続で前年を上回ったが、2012年は前年の大震災による特需反動から3年ぶりのマイナスとなった。2013年は堅調な食品関連需要等から微増となったものの、2014年は食品安全問題による大手ファーストフードの不振や夏場の天候不順の影響等から前年を下回った。

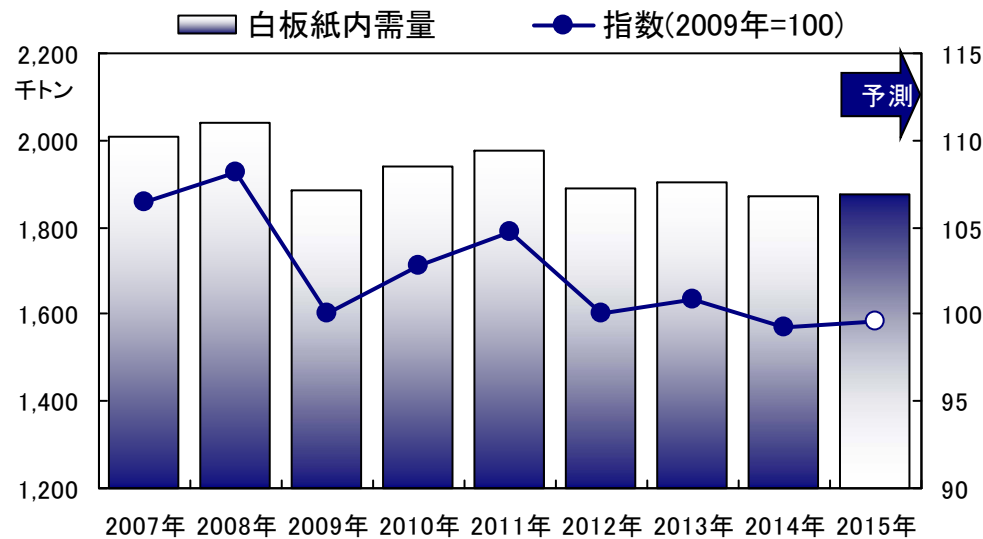
## 「2015年予測」

☆需要家のコスト意識は強まり、箱の小型化や軟包装化は懸念されるが、内食化の定着により食品関連需要は堅調と見られ、近年増加が目立つコンビニ向けの需要も引き続き見込まれる。また高齢化社会等を背景に医薬向けも増加が見込まれ、前年を上回ると予想される。

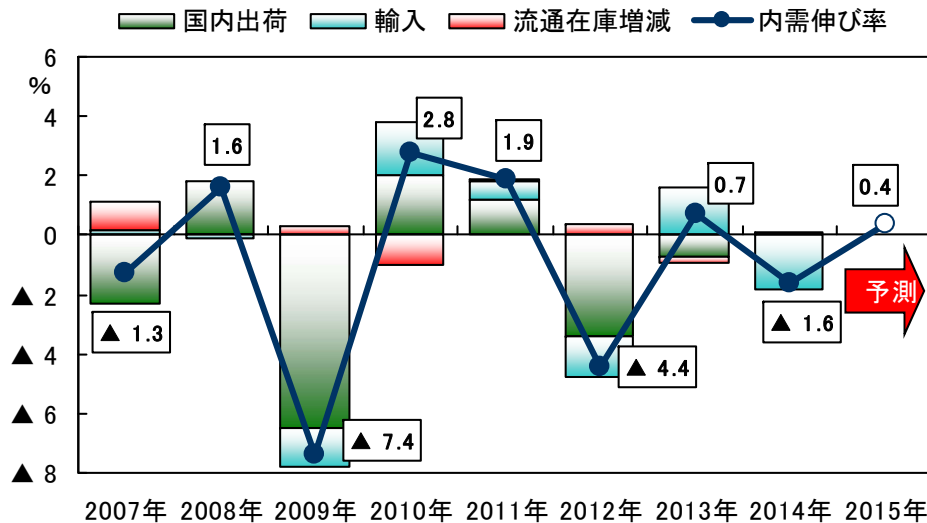
☆以上を勘案し、紙器用板紙の内需は前年に対し0.4%の増加(白板紙0.4%増、黄・チップ・色板紙0.7%減)を見込んだ。



# JPA (9) 紙器用板紙—②



## 寄与度



## 「2015年予測:分野別の需要動向」

☆食品向けは、低価格志向や節約志向の高まりを背景に内食化は継続すると見られる。その中で、レトルト食品は簡便性やメニューの多様化もあり堅調と予想される。また近年増加が目立つコンビニの食品向けは、大手コンビニを中心に店舗数が増加していることから、引き続きプラスが予想される。菓子関係は、ビスケットを中心に堅調と予想されるが、箱の小型化や軟包装化も懸念され、前年並みと見られる。全体では前年を上回ることが予想される。

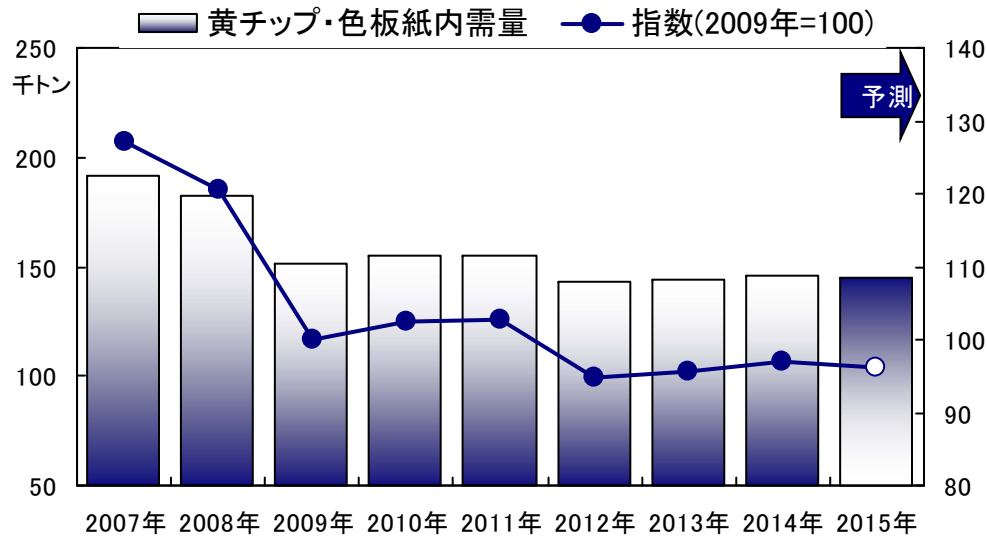
☆医薬・化粧・日用品向けは、ジェネリック医薬品や漢方薬は引き続き増加が予想され、内食化継続によりラップ需要も堅調と見られる。また高齢化社会や健康志向の高まり、大手ドラッグストアの店舗数増加も追い風となり、増加が予想される。

☆洗剤向けは、消費者の節約志向の高まりに加え、粉末から液体や第三の洗剤(ジェル)へのシフトもあり、減少が予想される。

☆ティッシュ向けは、花粉飛散量の増加予測もあり、前年を上回ることが予想される。

(次頁に続く)

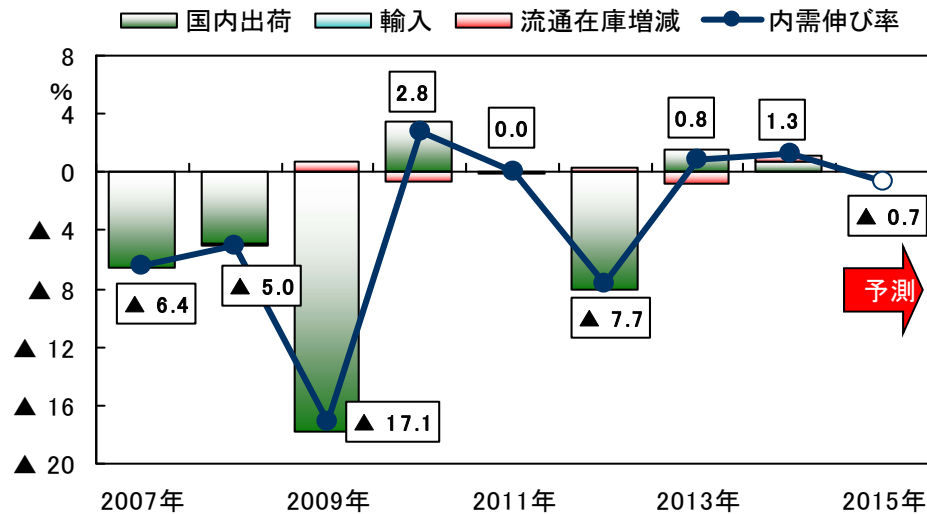
# JPA (9) 紙器用板紙—③



## 「2015年予測:分野別の需要動向」

- ☆商業印刷向けは、店頭販促品であるPOPは堅調と予想され、トレーディングカードも人気アニメ(妖怪ウォッチ等)の効果により増加が見込まれるため、全体では前年を上回ることが予想される。
- ☆出版印刷向けは、人口減や活字離れに加え、電子媒体のサービス拡充等の影響もあり、前年を下回ることが予想される。
- ☆文具事務用品向けは、少子化や電子化の浸透を背景に、ファイル類の減少傾向は引き続き予想される。

## 寄与度



# JPA Ⅲ. 2014年紙・板紙内需実績見込み

(単位:ト、%)

品 種	国内出荷		輸 入		計		流通在庫増減	内 需 計		14年連合会 内需予測 (B)	伸び率誤差 (A)-(B)	
		前年比		前年比		前年比			前年比(A)			
紙	新聞用紙	3,134,575	97.8	40,403	99.5	3,174,978	97.8	0	3,174,978	97.8	98.0	▲ 0.2
	非塗工印刷用紙	2,026,542	94.7	176,421	98.2	2,202,963	95.0	▲ 18,440	2,221,403	96.5	97.3	▲ 0.8
	塗工印刷用紙	4,506,468	95.7	636,497	93.6	5,142,965	95.5	▲ 25,649	5,168,614	95.9	98.7	▲ 2.8
	情報用紙	1,339,447	102.6	501,794	94.6	1,841,241	100.3	9,238	1,832,003	99.6	99.6	0.0
	印刷・情報用紙計	7,872,457	96.6	1,314,712	94.6	9,187,169	96.3	▲ 34,851	9,222,020	96.8	98.5	▲ 1.8
	未ざらし包装紙	490,237	101.6	7,169	84.5	497,406	101.3	1,156	496,250	100.9	98.8	2.1
	ざらし包装紙	267,654	100.0	1,535	92.1	269,189	100.0	407	268,782	99.7	98.2	1.5
	包装用紙計	757,891	101.0	8,704	85.7	766,595	100.8	1,563	765,032	100.5	98.5	1.9
	衛生用紙	1,758,000	100.3	180,776	127.0	1,938,776	102.3	0	1,938,776	102.3	100.5	1.8
	雑種紙	736,982	104.0	20,220	105.4	757,202	104.1	0	757,202	104.1	99.3	4.8
	紙 計	14,259,905	97.9	1,564,815	97.6	15,824,720	97.9	▲ 33,288	15,858,008	98.1	98.7	▲ 0.6
板 紙	ライナー	5,267,058	101.1	60,965	90.7	5,328,023	101.0	▲ 797	5,328,820	101.0	100.3	0.7
	中芯原紙	3,529,786	101.3	22,463	84.0	3,552,249	101.2	1,231	3,551,018	101.1	100.3	0.8
	段ボール原紙計	8,796,844	101.2	83,428	88.8	8,880,272	101.1	434	8,879,838	101.1	100.3	0.8
	白板紙	1,426,565	100.0	442,473	92.9	1,869,038	98.3	▲ 938	1,869,976	98.4	99.5	▲ 1.1
	黄チップ・色板	146,045	100.7	0	-	146,045	100.7	▲ 225	146,270	101.3	99.4	1.9
	紙器用板紙	1,572,610	100.1	442,473	92.9	2,015,083	98.4	▲ 1,163	2,016,246	98.6	99.5	▲ 0.9
	その他の板紙	666,184	101.2	11,075	98.3	677,259	101.2	13	677,246	101.2	99.3	1.9
	板 紙 計	11,035,638	101.1	536,976	92.4	11,572,614	100.6	▲ 716	11,573,330	100.6	100.1	0.5
紙・板紙計	25,295,543	99.2	2,101,791	96.2	27,397,334	99.0	▲ 34,004	27,431,338	99.2	99.3	▲ 0.1	

注) 1) 国内出荷: 雑種紙は塗工印刷用原紙を除く。

2) 輸入: 新聞用紙は日本製紙連合会並びに日本新聞協会調べ。通関との差し引き分は非塗工印刷用紙に計上した。

重袋用クラフト紙は全量を未ざらし包装紙に計上した。

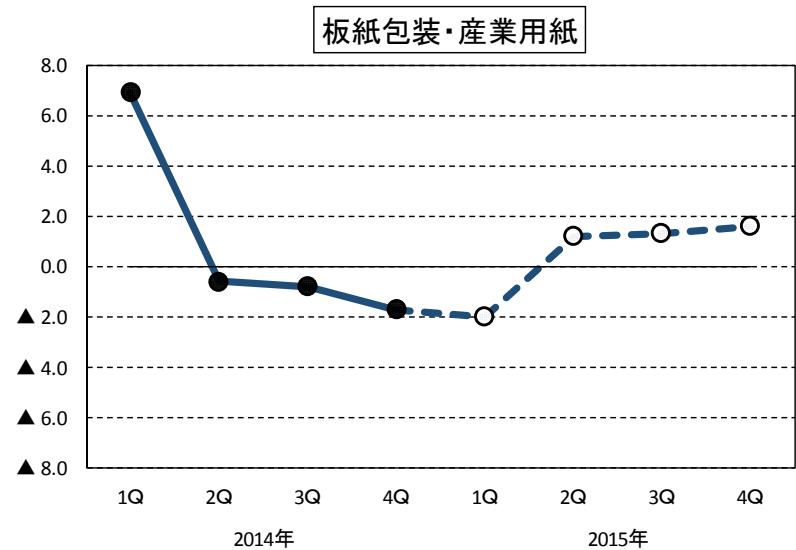
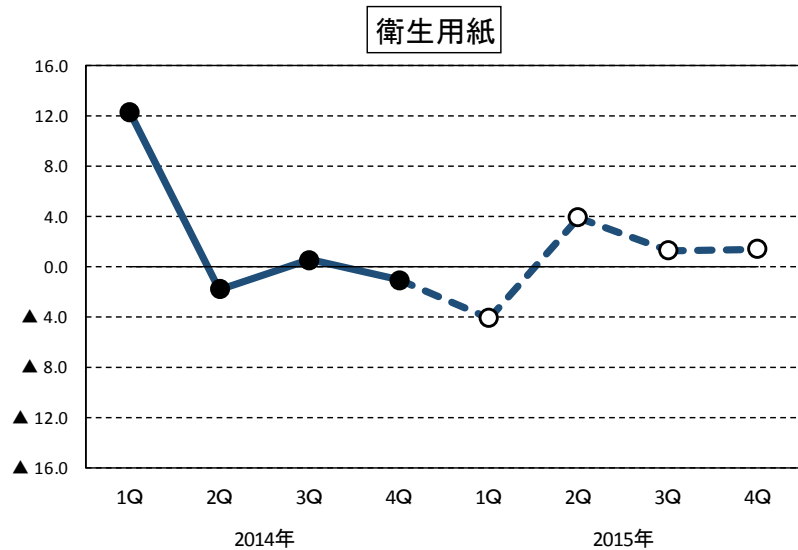
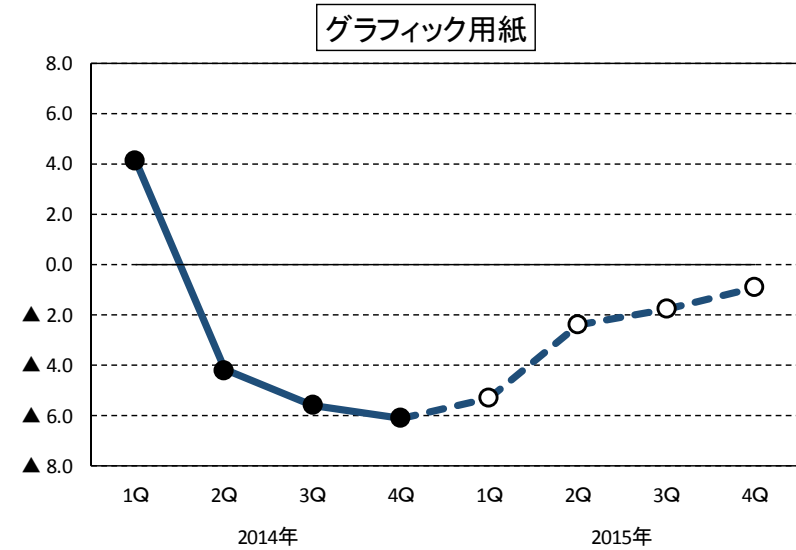
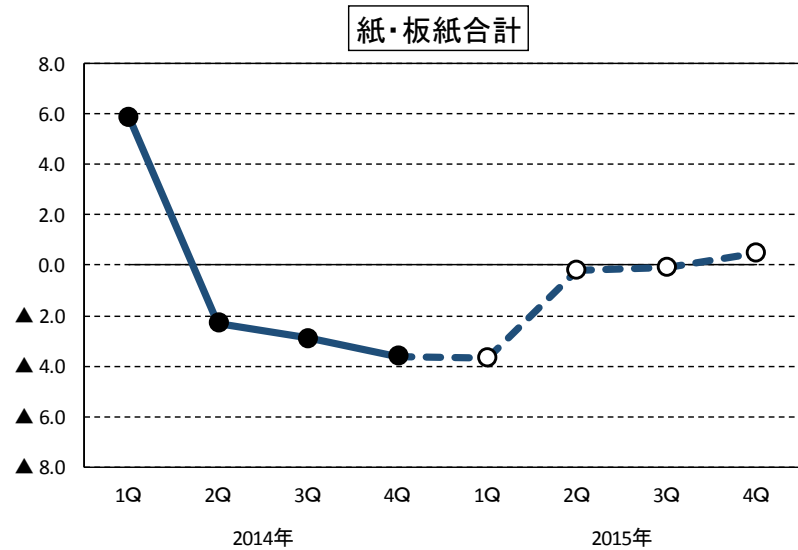
衛生用紙は製品輸入を含む。

白板紙はミルクカートン用紙を含む。



# JPA IV. 参考①品種別内需伸び率の推移(四半期見通し)

(単位: %)



## JPA 参考②

### 内需の定義について

「内需」は、国内出荷に輸入を加えた上で、流通在庫の増減分を加味して算出している。なお、輸入には、「原紙需給に大きく影響するとみられる紙製品及び原紙に類似した紙製品」として、ティシュペーパー、トイレットペーパー及びミルクカートン用紙(ポリエチレンラミネートしたもの)を含めている。

$$\text{内需量} = \text{国内出荷量} + \text{輸入量} + \text{流通在庫量の前年比増減量}$$

### 予測の仕方について

内需量は主要品種別に、ユーザー、流通、製紙企業それぞれの担当者へのヒアリングによる積み上げを基に試算している。

雑種紙及びその他の板紙の予測については包装用紙、段ボール原紙、紙器用板紙合計の伸び率を使用している。

なお、予測値及び見込み数値等は2014年12月26日時点で得られた情報を基に作成した。